



Mac導入の ROIを証明する 5つの指標



はじめに

企業がテクノロジーの選定をビジネス成果とより密接に結びつけようとする中、IT資産の投資対効果 (ROI) を正しく理解することがますます重要になっています。

本資料では、Macデバイスが企業において発揮する定量的かつ戦略的な価値を明らかにし、その価値を測定し、報告するための手法をご紹介します。

Macの初期導入コストはPCに比べて高くなる場合がありますが、長期的に考えるとMacの方が総コストを低く抑えられます。総保有コスト (TCO) の削減から従業員の生産性と定着率の向上まで、Macは5つの主要なROI指標で高い価値を示しています。本資料では、実際の企業環境におけるMacデバイスのROIを測定するための実用的なフレームワークを紹介します。

企業のデバイス活用に関する最近の傾向

企業のITは変革期を迎えています。リモートワークやハイブリッドワークといった働き方改革、テクノロジーを消費者向けと同等の使いやすさで利用したいという従業員の声、高まり続けるサイバーセキュリティの脅威を受け、デバイスの選択と導入のあり方が刷新されつつあるのです。

このような状況を背景に、IT部門のリーダーに対し、信頼できるROIデータでテクノロジー利用の価値を証明するよう求める重圧が高まっています。

ROIは、証明が困難

IT投資のROIを証明する際によくある課題

IT資産のROIを正確に算出して説明することは、たやすい作業ではありません。購入コストのような捉えやすい指標だけでは、収益に影響する他の要因を見落としてしまう可能性があります。テクノロジーの導入は、以下のような収益要因に影響を及ぼすためです。

- エンドユーザの生産性
- 高コストを招くデータ侵害のリスク
- 間接費

そのため、意思決定者には、初期費用以外の各種要素も考慮に入れて、大局的なビジネス目標に沿ってMacデバイス戦略を構築することが求められます。

5つの主要なROI指標

指標 ①

総保有コスト (TCO)

Macデバイスは購入時のコストが高くなりがちですが、PCよりもサポートの必要性や修理の回数は少なく、更新サイクルは長く、残存価値も高いため、長期的に見ればTCOは格段に小さくなります。Cisco社のCVP兼CIOであるフレッチャー・ブレヴィン氏は2023年の講演で、PCと比較すると**MacのTCOの方が3年間で148～395ドル安くなる**と話しています。

それ以降も複数の調査で、この傾向が続いていることが確認されています。例えば、**2024年にForresterが実施した「Total Economic Impact」調査**では、モデル組織に導入されたMacデバイス1台あたり5年間で**547ドルのTCO削減**が実現されていました。この調査の結論では、**Macの5年間のROIは186%である**とされています。

さらに、MacデバイスはPCに比べてソフトウェアの問題が少なく、ダウンタイムが短く、プロビジョニングプロセスが合理化されているため、ITヘルプデスクの負担も軽減できます。また、Appleの自動デバイス登録プログラム (DEP) を利用すると、ゼロタッチ導入 (IT部門がリモートでデバイスを設定すること) が可能になり、設定時間を短縮し、運用の負担を削減できます。



TCOの削減額は

547ドル



Macの5年間のROIは

186%

Macは



148～395ドル

安い (3年間運用した場合)

指標 2.

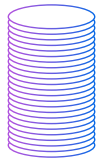
生産性の向上

Macはセットアップを高速化し、ダウンタイムを短縮し、従業員満足度を高め、生産性向上に大きく貢献します。クラウドベースのツールとシームレスに統合可能で、直感的なユーザインターフェイスを備え、Jamfなどの革新的なソフトウェアや戦略を利用できるため、新入社員でもすぐに業務を始められます。

前述のForrester社の調査では、Macデバイスのパフォーマンスと信頼性が高いことから、従業員の生産性が**3.5%向上**したと報告されています。3.5%向上というのは、かなり高いように思えます。他の指標も含め、実際の数字を見てみましょう。

3.5%

従業員の
生産性が
向上



**4,640万
ドル**

時間短縮の価値は**4,640万ドル**に相当 (モデル組織の場合)



**-45
分**

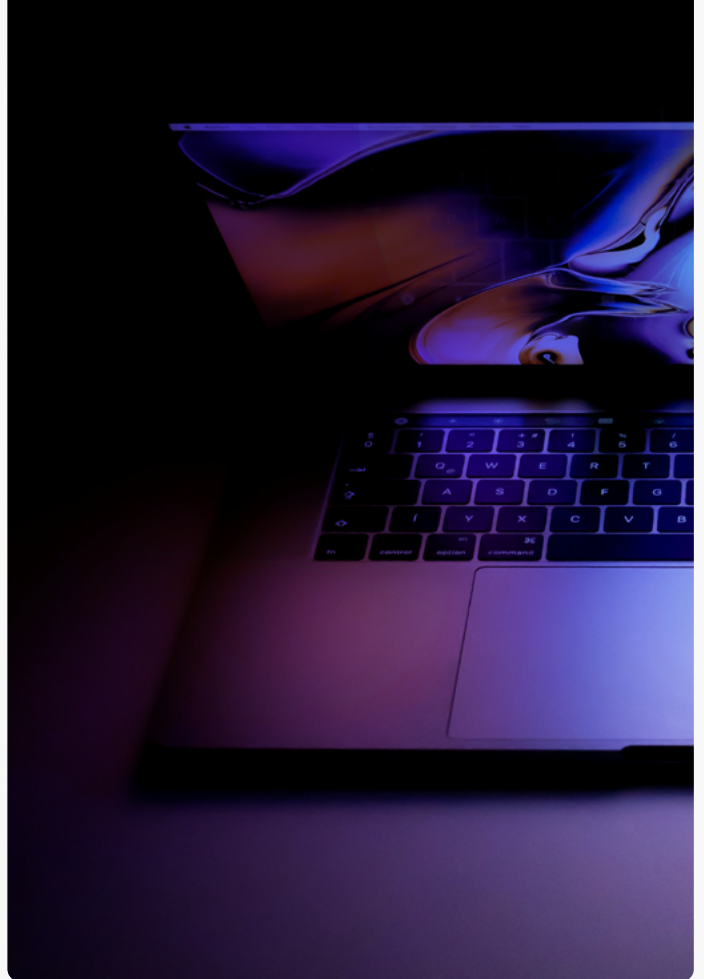
Macを利用すると**デバイス**起動や**アップデート**の待ち時間が**月に45分短縮**



**-55
分**

Macを選ぶと**問題の調査**と解決までの待ち時間が**月に55分短縮**

この調査では、「デバイスの処理の速さ、アプリケーションの信頼性とパフォーマンス、ユーザエクスペリエンスの直感性、バッテリーの持続時間のどれもが、従業員の意欲と生産性の向上に寄与している」ことも明らかになりました。



指標 3.

セキュリティとコンプライアンスの負担軽減

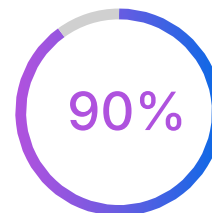
セキュリティに関しても、Macは高いROIを実現します。AppleのOSには、**FileVaultによる暗号化、Gatekeeper、システム整合性保護**などのセキュリティ機能が組み込まれており、強力な第一防衛ラインを築いています。さらに、OSの安定性が高いことから攻撃対象領域が小さく、Apple独自の宣言型デバイス管理 (DDM) で能動的にデバイスを管理できるため、Macを狙う攻撃は容易ではありません。

Macデバイスのビジネス利用が増えるにつれ、Mac狙いの攻撃が増えてはいるものの、依然としてMacはマルウェアの標的とされづらく、侵害のリスクやインシデント対応に伴うコストは低くなっています。規制要件も厳しさを増していますが、Jamfのブループリントやコンプライアンスベンチマークなどの組み込み型コンプライアンスツールを使用すれば、監査の準備にかかる手間を減らしながら、データとネットワークの保護を強化できます。

ただし、macOSには強力なセキュリティ機能が内蔵されていますが、特定のセキュリティ要件やコンプライアンス要件に対応するために、保護策を追加しなければならないことも少なくありません。Appleには、そのためのEndpoint Security APIが用意されています。このAPIにより、機械学習と振る舞い検知型の制御を使用してエンドポイントセキュリティ、脅威防御、コンテンツフィルタリングなどを提供する専用ソリューションを構築できます (Jamf Protectもその1つです)。

事実、Forrester社の調査では、**Macを導入することでデータ侵害のリスクを最大90%軽減**できることがわかっています。

Macの導入によるデータ侵害リスクの軽減率(最大)

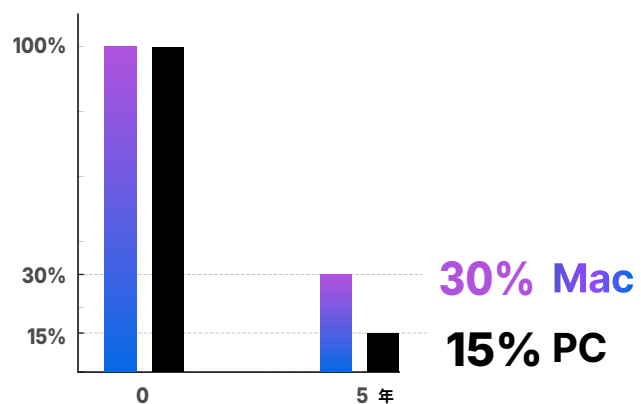


指標 4.

デバイスの寿命と残存価値

Macは堅牢なハードウェアと定期的なソフトウェアアップデートにより、一般的に他のデバイスよりも長く使用される傾向があり、5〜6年にわたって利用されることも珍しくありません。ライフサイクルが長いと、デバイスの更新頻度を減らすことができ、結果として収益にもプラスに作用します。

さらに、Macは中古市場でも高い価値を保っています。買取や下取りを利用することで、Windowsマシンに比べて多くの利益を回収できます。この残存価値の高さもROIの向上に寄与し、アップグレードサイクルの費用対効果を高めています。



Forresterの調査によれば、4年間使用した後の**残存価値は、PCが約15%、Macが30%**と推定されています（2023年時点）。



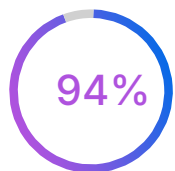
指標 5.

人材の獲得と定着におけるメリット

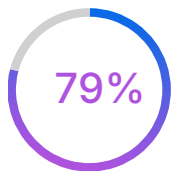
今日の従業員は、自分の好みに合った高品質のツールを使用したいと考えています。自分で業務用デバイスを選ぶプログラムの選択肢にMacを用意すれば、従業員の働き方を重視している企業であるという姿勢を示せます。

従業員に好まれるツールを用意することが優秀な人材の獲得と維持につながることは自明のようにも思えますが、JamfとAppleはその効果を検証するため、2019年に外部の市場調査会社に調査を委託しました。

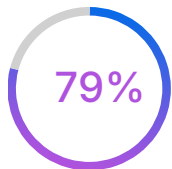
上記委託調査Global Survey:
Mac in the Enterpriseの結果:



業務用デバイスを選択できる会社を選ぶ、またはそうした会社で働き続ける可能性が高いと答えた回答者の割合

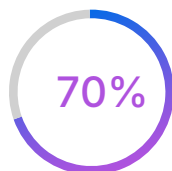


Macを使用できないと仕事を効率的に進められないと答えた人の割合

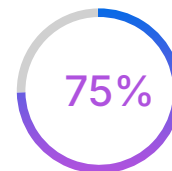


以前PCを使っていた人のうちMacに乗り換えて問題が減った人の割合

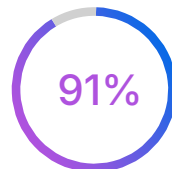
その裏付けとなる、2021年の
Vanson Bourneによる調査の結果:



自分でデバイスを選べる会社なら入社する可能性が高くなると答えた回答者の割合



Macを選択できるなら今の会社で働き続ける可能性が高くなると答えた人の割合



自分好みのデバイスを使用すると生産性が向上し、積極性が高まり、尊重されていると感じると回答した人の割合

テクノロジーに対する満足度と従業員の定着率の間に明確な関連性があることを踏まえると、これらの調査結果は企業にとって大きな財務的影響をもたらす可能性があります。Harris Poll社がExpress Employment Professionals社の依頼で実施した調査の結果報告「The \$100,000/Year Drain: How Employee Turnover Is Costing Companies Big in 2025」によると、「離職は、再雇用や生産性低下などの形で、年間36,723ドルもの損失を企業にもたらしている。採用責任者の5人に1人（20%）は、その額が毎年10万ドル以上にのぼると答えている」とされています。

Macの導入に対して寄せられる反対意見への対処法

ここまでで、Macデバイスの導入が長期的には大幅なコスト削減につながるということがわかりいただけたと思います。本セクションでは、Macのコストについて多くの人が抱いている誤解と、その回答を示します。

コスト、互換性、管理、セキュリティ、専門性について誤った反論が寄せられた場合の参考としてください。

💰 誤解：

Macデバイスはコストが高すぎる。

Macの導入における最も一般的な障壁は、初期投資の高さです。しかし、先述したTCOと長期的なROIの観点で見ると、5年間にわたる費用対効果では、Macへの投資の方が低価格のPC製品よりもはるかに優れていることがわかります。

総合的なROI測定を採用している企業では、Macは企業のニーズを満たすだけでなく、期待以上の成果を出しているという結果が実際に確認されています。

⚙️ 誤解：

Macを企業規模で管理するのは難しい。

Jamfのようなソリューションがあれば、MacもPCと同じように簡単に管理できます。Apple製品のために開発されたツールを使用することで、IT部門はユーザーエクスペリエンスを損なうことなくデバイスのパフォーマンスを最大限に高められます。さらに、Jamfソリューションは各種自動化機能を備えており、ゼロタッチ導入でユーザーの手を煩わせずにデバイスをプロビジョニングしたり、セキュアな構成を自動で適用したりすることも可能です。

🔗 誤解：

現在の社内インフラではMacを管理できない。

macOSはクラウドベース認証に対応し、Apple製品とシームレスに統合されたJamfソリューションも利用できることから、幅広いインフラと互換性があり、主要な企業向けアプリケーションも不便を感じることなく使用できます。

また、MacとWindowsの両方をシームレスに使用できる統合の実例として、以下のようなソリューションが広く使用されています。

- デバイスのコンプライアンス：ユーザーのIDと権限を一元管理し、継続的な条件付きアクセスを実現
- クラウドIDベースのシングルサインオン(SSO)：アプリやサービスへのアクセスを保護
- 豊富なMacテレメトリをSIEMにストリーミング：エンドポイントのテレメトリデータを一元的に収集・分析し、データに基づいた迅速な意思決定を支援

ROI測定の参考手順

MacのROIを効果的に測定するには、以下のように合理的な評価フレームワークを使用することが肝要です。

1.

ベースラインの指標を確立する

既存のプラットフォームで導入、サポート、従業員の生産性維持に現在かかっているコストを把握します。

2.

パイロットプログラムを導入する

まずMacデバイスを小規模に導入し、複数の部門や役割で実環境データを収集します。

3.

ROIツールを使用する

Apple、Jamf、またはサードパーティコンサルタントのツールを使用し、本書で紹介した5つの主要指標で効果を数値化します。

4.

ユーザからフィードバックを集める

従業員にアンケート調査を実施し、満足度、生産性、使いやすさを評価します。

5.

ライフサイクル指標を測定する

デバイスの更新頻度、残存価値、サポートチケットの量を追跡して、長期的なパフォーマンスとコスト削減効果を評価します。



まとめ

企業へのMacデバイスの導入は、長期的に見れば大きなコスト削減につながります。本ホワイトペーパーで紹介した複数の調査結果が、そのことを証明しています。MacはPCよりもTCOが低く、ROIが高いうえ、手間、ストレス、コスト、離職率も低減できます。

一方で、Macに対する誤解は根強く残っています。本書の調査結果を意思決定者に示し、誤解を解くとしても、Macの導入には長い時間がかかるかもしれません。しかし、IT部門として自社環境でのデータを収集すれば、上記のメリットが机上の空論ではなく現実のものだと示せるはずです。

戦略的なビジネス目標を視野に入れたうえでテクノロジーを評価し、Macの導入について説得力ある資料を作成して、自信を持って財務や業務にもたらす効果を提示しましょう。

Mac導入のメリットを目に見える数字で示しましょう。

無料トライアル

